



# 近江の石造宝塔

## 宝 塔

方形の基礎の上に円筒形の塔身をのせ、宝形造りの笠をかぶせ、その上に相輪を立てた形の塔を宝塔といいます。

基礎の上面は一般に平らですが円座や反花を刻んでいるもの（例・栗東町出庭神社宝塔）もあります。基礎の側面は無地のものもありますが、普通は輪郭で囲んだ内に格狭間を刻みます。本県のものでは、格狭間の中に蓮華や孔雀などを浮彫りしたものが多くありますが、このような意匠は本県内の層塔や宝篋印塔の基礎にも多く見られるもので、全国的に見て特色がありますから近江様式といわれています。

塔身は、ふくれた太い軸部と細い首部とに分かれて、大体1石で造られますが、大きい塔では2石に分けて造られます。軸部は、無地のものや、木造の塔の軸部を思わせる装飾を施したり、梵字や仏像などを刻んだりしたものが、首部にも丁寧な彫刻をしたものがあります。

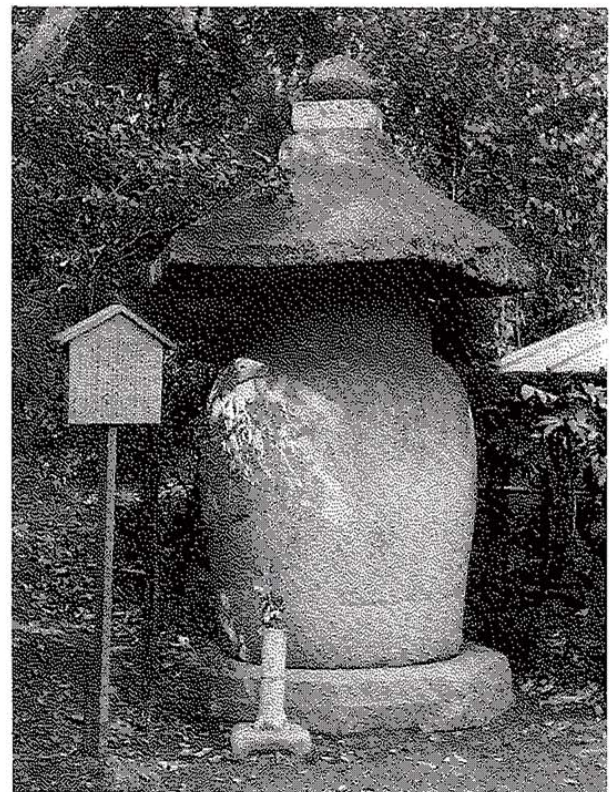
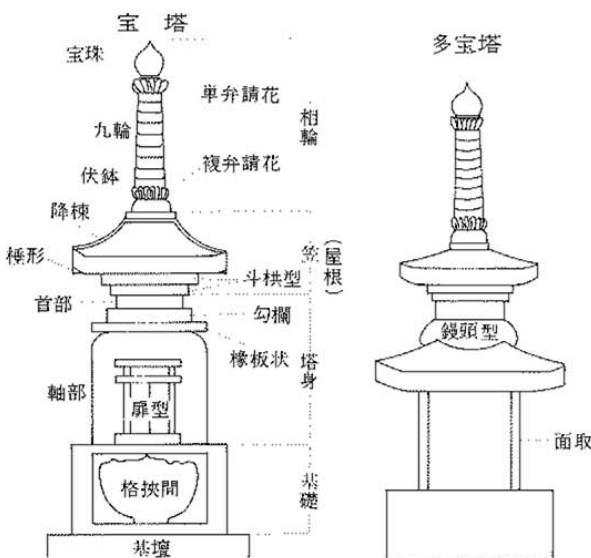
笠も、屋根や軒下に装飾を彫刻したものが

あり、笠の上部には露盤をつくり出し、その上に層塔と同じように相輪を立てますが、まれに宝珠だけを乗せた塔もあります。

塔身には、上部や下部に舍利や経文の納入孔が造られているものがあります。先年、修理が行われた懸所宝塔（守山市所在）では、上方に納入孔が造られて水晶舍利塔などが納められていました。

## 最古の宝塔

大津市逢坂二丁目の長安寺宝塔（重文）は参道の中腹に建っている大塔で、昔、この地にあった関寺の建立に不思議な力を現わした霊牛を祀ったというので関寺の牛塔と呼ばれています。花崗岩製の高さ3.4メートルに近い塔で、八角形の低い基礎の上面は少しふくれ、その上に無地で胴のふくらんだ塔身がどっか



▲長安寺宝塔

と坐っています。

笠は六角形で稜線がゆるやかに伸び、軒先に檼形がかすかに見え、上部に円形の露盤を造り出しています。上から眺める屋根の流麗な線や、全体に素朴で重量感のあることなど古塔の風格が滲み出て、平安後期の作とも推定される県下最古の宝塔です。

### 美しい二つの塔

その一基は守山市金森町の懸所宝塔（重文）で、昭和41年に大修理が行われて美しい姿を見せています。花崗岩製で高さ 3.8メートル強。基礎は4石を合せてつくり、その側面は各面とも2区画に分れていて、それぞれの格狭間の中に1羽の孔雀を対称形になるように浮彫りしています。塔身の軸部と首部とを別々の石で造り、軸部には木造の塔の軸部を思わせる柱、長押、扉を丁寧に彫り出してその上部に縁板状を張り出し、首部は2段になっていて下部に高欄、上部に柱を現わすなど細密な表現をしています。

笠も屋根と軒下とを2石でつくり、軒下は3段の豪華な斗栱形にし、軒裏に檼や飛檐檼



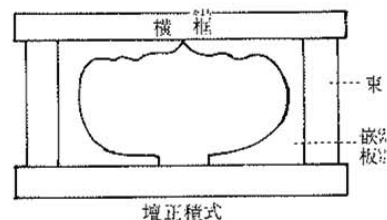
▲西明寺宝塔

形を飾り、屋根には稚児棟を付けた降棟をつくり出しています。露盤の上の相輪で注目されるのは、宝珠の四方に水煙を彫り出していることです。このように各部にわたってそつのない細かい彫法と、やや堅い感じはあるが整備されたすきのない形は、鎌倉後期の優秀な宝塔と考えてよいでしょう。

いま一基は甲良町池寺の西明寺宝塔（重文）です。この宝塔には嘉元2年（1304）の銘があり、また平景吉という工人の名が刻まれています。この石工は石塔寺の宝塔にも記名されている近江の代表的な作者です。この塔も花崗岩製で高さは 2.2メートル強あります。

基礎は檀正積

式（檀上積式ともいう）で、その側面の格狭間内には開蓮華を浮彫り



し、1石で造った塔身の軸部は懸所宝塔と同様式のものに細密に刻まれています。首部には高欄をつくっていません。

笠の軒下はやや薄い斗栱形が2段つくり、繊細に刻まれた稚児棟、降棟のある屋根の露盤が低く、相輪も宝珠も美事な出来ばえで、これも鎌倉時代の代表的な作品といえます。

塔身に陰刻されている銘文によると、先人を供養するため如法経を納める塔として建立したもので、宝塔のいわれがわかる貴重な資料になっています。

### 古い銘のある宝塔

水口町大字岩坂にある最勝寺宝塔は弘安8年（1283）の建立で、銘のある県内の宝塔中で最古のものです。花崗岩製で高さは約2メートル。相輪も1輪だけが残っている古色蒼然とした塔で、低い基礎の側面は輪廓が太く、その内に力強くやや小さ目に格狭間だけを彫っています。塔身の首部は3段になっていますが装飾は簡略にし、軸部は円筒型ですが、四方に開扉した中にそれぞれ1体の仏坐像を浮彫りした珍しい表現のものです。笠は、厚



▲最勝寺宝塔



▲鶴の塔



▲廃少菩提寺多宝塔

い軒が反り屋根は勾配がゆるく降棟がかすかに残っています。全体に重厚な感じの作品です。

### 大型の宝塔

安曇川町三尾里の満願寺宝塔は、雌雄の鶴の死を悲しんで供養のために建てたものという言い伝えから、土地の人たちは鶴の塔と呼んでいます。4メートルにも及ぶ鎌倉時代の大塔ですが、民家の隅にひっそりと建っています。

相輪は後に補ったものですが、基礎は無地、塔身は軸部と首部とが、笠は屋根と軒下の斗拱形とがそれぞれ2石で造られ、首部には高欄が飾られています。

この塔の特色は軸部の彫刻で、1面に扉形を開いた内に2体の仏像が並んで刻まれていることです。「法華経見宝塔品」に、釈迦が霊鷲山で法華経を説かれていると、地下から多宝如来の舍利を安置する宝塔が現われ、中から釈迦を礼讃する声がするので扉を開けられると、多宝如来が半坐をあげて釈迦を招き入れ並坐されたとありますが、鶴の塔にはその姿が浮彫りされてあるのです。

### 石造多宝塔

宝塔とよく似ているものに多宝塔があります。石山寺には有名な国宝の木造多宝塔があ

りますが、これを石で造ったものを考えるとよく分ります。宝塔との形の違いは、笠が2層であること（一層は裳階）、初軸部が円筒形でなく方形であること、初重屋根の上に饅頭型が造られていることなどです。

このような形の多宝塔は全国でも数が少なく、県下では、僧良弁が建立したと伝えられる石部町東寺の長寿寺多宝塔と、甲西町菩提寺の廃少菩提寺跡にある多宝塔（普会塔）の2基があるだけです。ともに同形で上層屋根は鍔葺になっています。前者の初軸部は四方とも面取りがなされ、後者は釣合いのとれた美しい姿で、仁治2年（1241）の銘があり、また経巻を納めて先祖のために供養をすることが刻まれた貴重な石塔とされています。

### まとめ

宝塔は、密教が広まるにつれて多く造られるようになりました。ことに、法華経に依る天台宗では自然と造塔が多かったようで、県内でも天台寺院やもと天台宗であったと伝えられる寺院に多くあります。湖西地方に沢山あるのもそのためでしょう。

宝塔は県下に120基余りありますが、そのうち文化財に指定されているものを参考のために一覧表にしておきます。

（宇野健一氏提供）

# 滋賀県石造宝塔一覽表（抄）

昭和51年4月末調

名 称	所 在	所 有 者	時 代	備 考
石 造 宝 塔	大津市園城寺町	園 城 寺	鎌 倉	重美
長 安 寺 宝 塔	" 逢坂二丁目	長 安 寺	鎌倉初期	重文
石 造 宝 塔	" 石山寺一丁目	石 山 寺	鎌 倉	重美
石 造 浮 彫 宝 塔	" 田上枝町	安 楽 寺	"	市文
宝 塔	近江八幡市島町	延 光 院	平安～鎌倉	"
石 造 宝 塔	守山市守山町	東 門 院	鎌 倉	重美
懸 所 宝 塔	" 金森町	善立寺・因宗寺・金森区	"	重文
石 造 宝 塔	" 木ノ浜町	木 ノ 浜 区	"	重美、二基
"	栗東町荒張	成 谷 寺	室 町	町文
"	" 荒張	山 口 寺	鎌 倉	"
"	" 中村	善 勝 寺	"	"
"	" 靈仙寺	正 樂 寺	"	"
多聞寺石造宝塔	野洲町北桜	多 聞 寺	室 町	"
石 造 宝 塔	甲西町正福寺	川 田 神 社	南 北 朝	"
"	" "	正 福 寺	"	"
石 塔 寺 宝 塔	蒲生町石塔	石 塔 寺	鎌倉 <small>正安4年(1302)</small>	重文
正 法 寺 宝 塔	日野町鎌掛	正 法 寺	" <small>正和4年(1315)</small>	"
石 造 宝 塔	" 安部居	念 法 寺	"	町文
"	" 蔵王	寂 照 寺	室 町	"
"	" 猫田	禪 林 寺	鎌 倉	"
"	" 西明寺	西 明 寺	"	"
八幡神社宝塔	竜王町島	八 幡 神 社	鎌倉 <small>正和5年(1316)</small>	重文
宝 塔	五個荘町下日吉山ノ脇	下 日 吉 区	"	町文
長 勝 寺 宝 塔	能登川町長勝寺	長 勝 寺	"	"
西 明 寺 宝 塔	甲良町池寺	西 明 寺	" <small>嘉元2年(1304)</small>	重文
正樂寺若一神社宝塔	" 正樂寺	若 一 神 社	室 町	町文
多 宝 塔	甲西町菩提寺	甲 西 町	鎌倉 <small>仁治2年(1241)</small>	重文
石 造 多 宝 塔	石部町東寺	長 寿 寺	"	町文

（注）備考欄中の略号は、次のとおりです。

重文—重要文化財、重美—重要美術品、市文—市指定文化財、町文—町指定文化財